



夏 子どもたちの 休みの思い出アルバム



各地域で行われるイベントは、地域住民の結束力や活力を生み、子どもたちにとっても郷土愛を育ませ、地域の伝統や役割を理解する良い機会となっています。

長い夏休みの間に経験する一つ一つの出来事が、子どもたちの心に残る大きな財産となり、次の世代へと受け継がれていきます。

頑張れ！もっと引っ張れ！ —夏休み恒例 カブトムシ綱引き大会—

今福公民館が主催する夏休み恒例行事「カブトムシ綱引き大会」が8月3日、東部交流センターで開催されました。

会場には、小学生27人が自慢のカブトムシを持ちより、テーブルの上の約30センチの高さに設置した長さ



約90センチのクヌギの枝の上で、2匹のカブトムシの角にひもを結び付け、綱引きによる力くらべを行いました。

参加した子どもたちは、細い棒でクヌギの枝を叩きながら、自分のカブトムシを応援していました。

結果は、宮崎菜央さん（今福・木場、今福小3年）が優勝。宮崎さんは、「学童のみなさんでお世話をしているカブトムシを代表して連れてきました。優勝できて嬉しいです」と喜びを述べました。

また、この日はクワガタムシ美虫コンテストも行われ、濱道愛華さん（志佐・白浜団地、志佐小3年）が優勝しました。



豆力士が熱戦 —千燈籠奉納相撲大会—

御厨町郭公尾地区の伝統行事として、地域住民の親睦と子どもたちの健やかな成長を願って、毎年8月17日に同地区にある御堂様前広場で行なわれています。

この日は、土俵上で地元の小学生など約10人が熱の入った取組を展開。押し出しや寄り倒しなど、技が決まるたび集まった観客から歓声が上がっていました。



すべての取組が終わると、子どもたちや観客に1年間の健康を願い、地区の男衆が作った「力飯」と呼ばれる大きなおむすびが振る舞われ、子どもたちはおいしそうに口にほお張っていました。



星鹿ジャンガラ・牟田ジャンガラ —お墓をたたいて無病息災—

無病息災や五穀豊穡を願う盆の伝統行事「ジャンガラ」が8月15日、星鹿地区と牟田地区で行なわれました。

『星鹿ジャンガラ』では、法被姿の子どもや大人約50人が地区一帯を練り歩き、僧の墓とされる石塚を長さ



15歳の『大のぼり』と子ども用の『小のぼり』で叩いたり、浄土寺境内では、「ナーム・ホーリ・ホッポンジャ」「ホイホイホイ」と掛け声を掛けながらのぼりで地面を打ち付けたりして、豊漁や無病息災を祈願しました。

一方、『牟田ジャンガラ』では、地元の住民など約30人が参加。『御厨徳(めぐむ)』の墓とされる場所で、子どもたちがのぼりで墓を突いて、豊作や無病息災を祈願しました。



ようこそ 松浦へ！

—ホークス交流と生徒学習交流—

●鷹島町でホークス交流

8月6日から10日にかけて、北海道鷹栖町と本市の小学生がホークス交流を行いました。

この事業は、夏休みに鷹栖町の児童が本市へ、冬休みに本市の児童が鷹栖町を訪問し、互いの地域の風土や文化の違いなどを体験し交流を図ることを目的に行われています。



今回は鷹栖町の児童3人が、ホームステイ先の児童と元寇の史跡巡りや海水浴、モンゴル村でのゲル宿泊を体験しました。また、9日の登校日には一緒に登校し、平和学習に参加しました。



●松浦市・木曾町・福島町生徒学習交流

8月8日から11日にかけて、長野県木曾町の中学生8人と北海道福島町の中学生5人が本市を訪れ、本市の中学生と学習交流を行いました。

木曾町と福島町の生徒たちは、松浦市の生徒宅にホームステイをしながら、受け入れ家庭との交流や市内見学、魚釣りといった松浦市での生活や文化そのものを体験し、互いに交流を深めました。

また、今福中学校の平和祈念集会にも参加し、今福中学校の生徒と共に恒久平和への祈りを捧げました。

